

# Bricolage

500円+税

特集①

2014

5

May.  
Vol.227

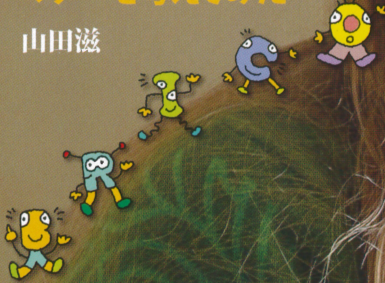
特集②

マナー

## 接遇って なんだらう?

ことばから介護施設の  
マナーを考えてみた

山田滋



### その1 「ふらっと」は解放の館!?

宮袋季美

### その2 認知症のある人が 納得するまで つきあうケア

植賀寿夫



# 熱い血ま、現場では ポルト

三好春樹

Haruki MIYOSHI

認知症老人のコミュニケーション覚え書き その⑩

気を変える方法① 自分たちの介護を対象化する

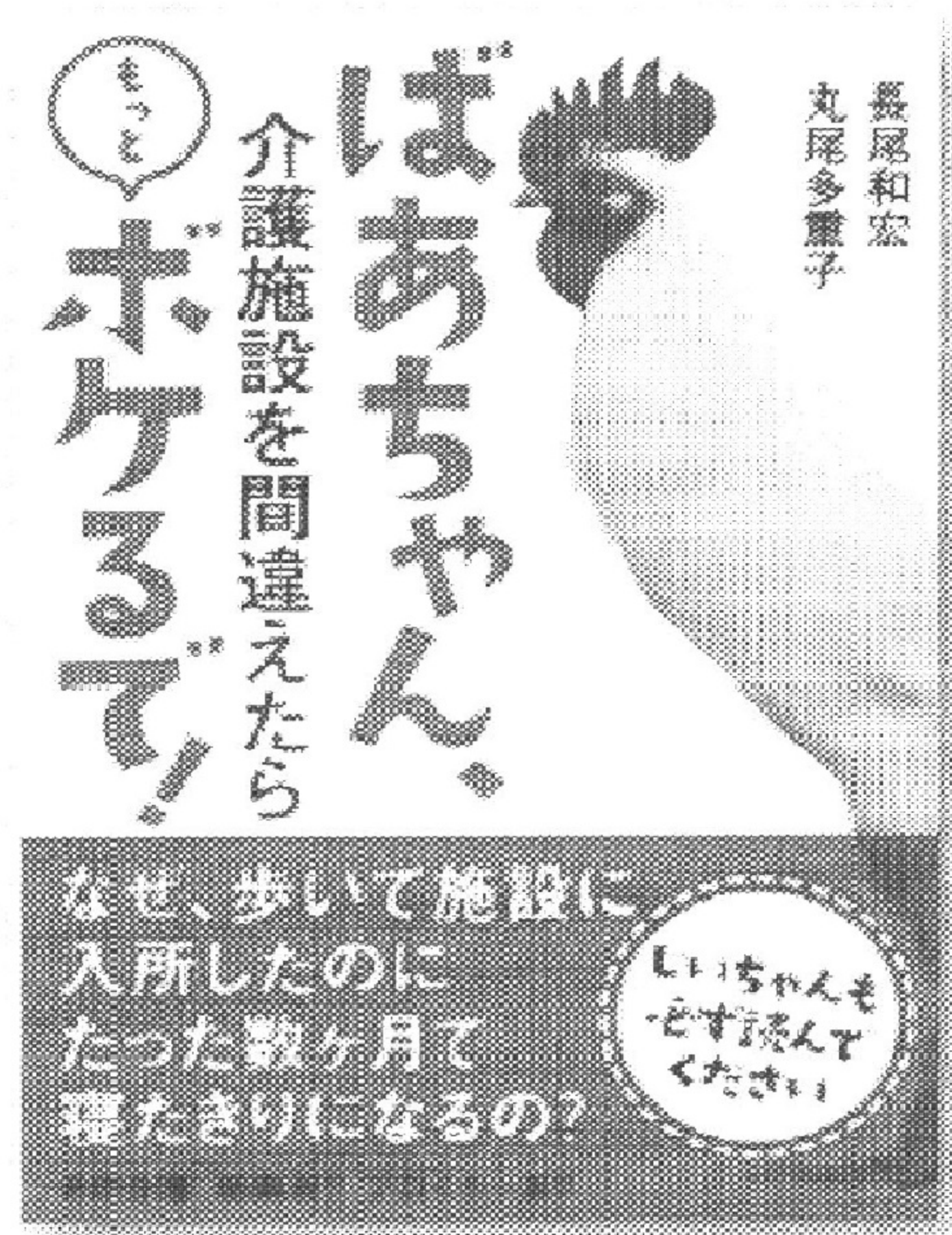
介護夜話

生活リハビリ講座2014開催のお知らせ

## 介護家族と医者とのダブル突っ込み ●三好春樹

ばあちゃん、  
介護施設を間違えたら  
もっとボケるぞ

著者：長尾和宏、丸尾多重子  
発行：ブックマン社  
定価：1,300円+税



話題の2人の対談集が出版された。丸尾多重子さんは兵庫県西宮市に「つとよい場さくらちゃん」をつくって介護界に新風を巻き起こしている人。本誌読者ならご存知の人も多いはずだ。

長尾和宏さんは同じく西宮市の開業医。「平穏死」10の条件」「抗がん剤10の「やめどき」「胃ろう」という選択、しない選択」と、ベストセラーを続出している日本中で話題の人。著書は一般の人が直面して悩んでいる問題に、二者択一ではなくて、ちゃんと整理して答えを見つけさせてくれるという、この時代にこそ求められているものばかりだ。

それにしても立て続けの出版に私は「長尾先生、躁状態じゃない

かと心配している」とマルちゃん（丸尾さんの通称）にメールをしたら、それを読んだ本人から「いや、むしろうつなんです」と返事が来たことがある。

長尾先生がこれだけ書き、語っているのは現在の医療への、うつになりそうなくらいの怒りだというのだ。そう、この2人のエネルギー源は現在の医療や介護への怒りなのだ。だから2人の対談の内容は私たちの心にスツと入ってくる。なによりちつとも説教臭くない。

それどころかこの対談、ダブル突っ込みとでも言うべき、日頃の二人のやりとりそのもののおもしろさ、でもそこで大事なことが語られている。

私は介護施設の1年間の研修会スケジュールを相談されて、丸尾さんと「さくらちゃん」に集う家族の話や1日組み込んでいる。利用している家族の声を直接介護職に聞かせたいのだ。あなたの職場でも！

長尾先生は日本全国を講演で飛び回っているので情報をチェックしてぜひ。この本はいま全国の書店に並んでいるので、それを持って行ってサインをしてみよう！介護職が読んでいることをなにより喜んでくれると思う。

